

第1回 千代川圏域県管理河川の減災対策協議会 議事概要

1 日 時 : 平成29年5月18日(木) 10時~11時

2 会 場 : 国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所 1階会議室

3 出席者

(委員)

鳥取市長 深澤 義彦

岩美町長 榎本 武利

若桜町長(代理) 町土整備課 参事 岩本 孝美

智頭町長 寺谷 誠一郎

八頭町長 吉田 英人

気象庁 鳥取地方气象台長 真木 敏郎

国土交通省中国地方整備局 鳥取河川国道事務所長 北澗 弘康

鳥取県 危機管理局長 安田 達昭

鳥取県 県土整備部長 山口 真司

鳥取県 鳥取県土整備事務所長 山内 政己

鳥取県 八頭県土整備事務所長 新 浩薫

(オブザーバー)

国土交通省 中国地方整備局 河川部

4 議題

(1)設立趣旨、規約(案)の確認

(2)水防災意識社会再構築ビジョンの県管理河川への展開

(3)県管理河川における現状の水害リスク情報と取組状況

(4)「水害に対する警戒・避難情報のあり方検討会」で抽出した課題について

(5)減災のための目標と取組(案)及び今後の進め方について

5 議事概要

- 設立趣旨、規約(案)について承認。
- 減災のための目標及び今後の進め方について承認。
- 来年度のフォローアップからは国、県の協議会を共催で行うなど、流域及び圏域での連携・整合を図るよう調整する。

(主な意見)

- 市町村長は、いろいろなデータ、情報を瞬時に分析、判断して避難勧告、避難指示等、適切なタイミングで決定していかなければならない。国、県との連携が今まで以上に必要であり、協議会も連携して機能していくような形で進めてもらいたい。
- 日ごろから緊張感を持つ、小学校のときから危機管理を身につけるといことで、防災キャンプの実施を今年度予定している。また、集落で防災マップを自分たちでつくって、それを自分たちの目で点検して、いざというときには要支援者を助けに行くという、そういった取組も進めている。
- 国管理河川と県管理河川における取組の整合性をとってもらいたい。
- 氾濫の規模について、これまで想定していた規模から、想定最大規模へとレベルアップする段階の見極め方を十分検討する必要がある。想定最大規模のハザードマップだけでなく、これまでのハザードマップも考えて検討することが重要である。
- 出水時の対応は、国管理、県管理で別々ではなく、水系全体として連絡、調整が必要である。また、タイムラインを作成し、何をやっておくべきかということをしっかり準備して、災害に備えたい。
- 鳥取県の強みである「支え愛」による地域防災力の強化について、6月県議会で防災及び危機管理に関する基本条例の一部改正を行い、この支え愛活動というものを一層広め、深めていこうとしているところ。現在も市町村において、市町村社会福祉協議会と一緒にマップづくり等を進めていただいているが、一層協力をお願いしたい。
- 河川管理者として、市町村にどういうデータが与えられるかということが非常に大事であり、国と県との整合性をしっかり図っていかなければいけない。
- 最終的に、個人あるいは集落等のコミュニティーが主体的に動けるところまで十分な対応を検討するということが必要。